

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O171600240		
法人名	あすなろ福祉会		
事業所名	シルバーハウス ケープ赤石		
所在地	北海道爾志郡乙部町字元和84-8		
自己評価作成日	令和3年9月22日	評価結果市町村受理日	令和3年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の前に、広大な公園がありそこを見るだけでも良い気分転換になっております。施設自体は古く不便もありますが、色々工夫をし業務を遂行しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvgysoCd=0171600240-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年10月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「シルバーハウス ケープ赤石」は、乙部町の中心部より車で10分程の距離で、眼下に日本海が間近に見える切り立った丘の上(元和地区)に開設をして20年が経過した事業所である。周囲をイタヤカエデなどの雑木に囲まれ、隣の「元和台公園」には広大な芝生が広がり、多数の桜の木も植えられて恰好の散歩コースになっている。事業所の側の坂道を下ると波の穏やかな入り江を利用した「海のプール」が造られていて、夏には多くの利用者で賑わっている。建物は、以前ペンションだった木造2階建てをそのまま活用した1ユニットの事業所である。施設の老朽化で不便さは否めないが、職員は利用者の生活に支障がない様に知恵を出し合い、工夫して不便さを乗り越えている。居室や居間兼食堂からは地平線が見渡せ、夏は「海の青と周辺の緑」のコントラスト、冬は「早朝の朝焼けとけあらし」のコントラストが素晴らしく、特に浴室から見える夕日は美しく、風光明媚な環境の下で職員は利用者の気持ちに寄り添って一緒に楽しみを見つげながら、落ち着いた穏やかな生活を支援している。夜勤の職員にそっと「あなたに会えてしあわせ」と胸の内を明かす利用者の言葉に、職員は「力」と「勇気」をもらい、更なるケアサービスの質向上を目指して研鑽を積んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、それに基づいて業務を遂行しております。	事業所内に掲示すると共に、毎月のミーティングで管理者と全職員で話し合い、実践で活かせる様に取り組み、職員は理念の趣旨を理解しており、より良いケアサービスにつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、コロナ禍という事もあり交流は無くなっていますが、たまに外出し地域の方と会うと気軽に声を掛けて下さっております。	感染症対策以前は町内の催し物に参加して交流を図っている。現在は職員が地域の見守り役を担い、地域との関係が途切れない様に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、集まる場というものが無くなっていますがたまに地域の方と会う機会がある時は話をしております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会が行われていない。	運営推進会議は隣接する同法人事業所と合同で実施しているが、令和元年春の開催以降、見送られている。現在は会議の早期開催に向けて準備を進めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に町の担当の方や、包括の方のアドバイスを受けております。	職員は地域の見守り役として、包括支援センターと連携を密にしている。町の地域ケア会議に出席して情報交換をしている。介護保険の更新時や予防接種の件で直接役場に出向いている。また、現在は閉所手続きの為に訪れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に、身体拘束について話し合い理解を深めっております。	身体拘束ゼロの手引を基に内部研修を行っている。日々、言葉遣いや口調、声のトーンなどが不適切と思われた時は、職員同士が都度チェックし合っ て拘束や抑制のない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と一緒に話し合い理解を深めております。		

シルバーハウス ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しなければならない方がいないので、活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、必ずご家族に重要事項説明書の説明を行い同意を得ております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、報告書をご家族に提出し必要に応じて電話にて状況の説明をし意見を頂いております。	面会時や電話などで意見や要望を収集し、家具の配置や朝食時の飲み物等、利用者一人ひとりの希望を叶えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員会議にて運営や利用者の処遇について話し合いそれをケアプランに活かしております。	管理者は職員の様々な事情に配慮し、勤務調整を細かくして、働きやすい職場環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として人事考課があり、それを励みに業務を遂行しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、コロナ禍で研修も無くなっていますが職員会議にて常に拘束や虐待について話し合っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア会議に参加することで、情報や技術等を得る事ができております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安に思っている事や、要望等を傾聴し安心して暮らせるよう支援しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望を傾聴し、ケアプランに活かせるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族と相談し、ケアプランに活かしております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が今まで暮らしてきた生活の知恵や、歴史を通して職員も学べる場となっております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人やご家族と相談し、ケアプランに活かしております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の携帯電話やハガキ等を通じ、良好な関係が築けております。	かかりつけの理容師が送迎をしてくれるので、気分転換を兼ねて理容院での理髪を継続している。美容は馴染みの美容師が事業所に訪問して行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が話したり、レクを協力したりと出来るよう支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所された方でも、必要に応じ情報提供や相談を行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の意向や要望を傾聴し、ケアプランに活かしております。	日々のさり気ない会話から意向や希望を把握し、職員で話し合い、介護計画にも反映して希望が叶う様に取り組んでいる。「最期までここで世話になる」好きな食べ物の要求など、利用者は自由に思いを表出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで暮らしてきた生活を参考に、ケアプランを作成しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態を記録し、常に本人の要望を傾聴しております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、職員会議にて本人の状態等について話し合いそれをご家族に相談したりケアプランに活かしております。	サービス計画評価表を活用して3か月ごとにモニタリングし、毎月のカンファレンスで検討して、現状に合った介護計画作成し、6か月を目途に更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別に経過記録を作成する事により生活全体が把握できそれを職員間で共有しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の他施設との連携により刺激になっております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防・地域の方の協力により、安全に暮らす事ができております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常にかかりつけ医に受診を行い、日常の情報を提供する事により適切な医療を受けられております。	職員が同行し、利用前からのかかりつけ医を継続して受診している。遠方の専門科を受診する時は家族が同行し、結果は都度報告を受けている。かかりつけ医との連絡は24時間オンコール体制が整えられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はおりません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、速やかに情報を提供し出来るだけ早期に退院できるように医療連携室と連携を図っております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケープ赤石では看取りは出来ないことから、重度化する前にご家族と相談し施設への入居申込や入院等を話し合っております。	契約時に医療連携や事業所が対応出来る最大のケアについて家族に十分説明をして、同意を得ている。状態が変化した時は医師と家族、事業所で話し合い、入院や施設入所など適切な支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常の中で、急変時や対応について職員会議の中で話し合い共有しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法等を消防署の方の助言を受けるとともに、具体的に避難について職員と話し合っております。	火災避難訓練は令和元年に消防署の協力を得て実施した以降は、計画は作成しているが、見送られている。避難方法などについて、消防署の助言を受けたり、職員で話し合うにとどまっている。備蓄品や保存食などは「社会福祉法人あすなる」と協力体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、様々な場面で声掛けに気を付けております。	トイレや入浴など羞恥心の伴う介助には、細心の注意をはらって対応している。トイレは一人で入り、職員は利用者の安全をそっと確認するにとどめている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いを汲んだり自己決定ができるよう必ず声掛けを行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日行っている事を尊重し、職員側の都合で1日を決めてはおりません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣は本人の自己決定により行われております。		

シルバーハウス ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むきや、特にイベント時に行う料理作りが好評です。	食事は法人本部で献立を作成し、それに沿った食材が本部から届けられる。利用者が希望する時は献立を変更して、好きなものを食べて食事を楽しんでいる。正月やお盆は「赤飯や煮しめ、鯨汁」などを手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態を把握し、適切な食事を用意しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時には、必ず職員が側につき見守りを行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握する事により、事前の誘導やパッドの交換の回数を減らす事ができました。	全員が昼夜とも自立しているので、職員はパッドの交換を確認する程度に止めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の状態を把握し、それに応じた食事の提供や運動を行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大浴槽であり湯をためるのに膨大な時間がかかるため、入浴日は施設側で決めてはいるが、順番は希望を聞き楽しく入れるよう配慮しております。	本人の希望を優先しながら週に2~3回の入浴を基本としている。入浴剤は数種類用意して、色や香りを楽しんでいる。入浴後はサイダーやジュースなど利用者が好きな飲み物を用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時の状況に応じて、眠れるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は必ず医師に、薬の目的や効能について聞きそれを他の職員に伝達するよう行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を把握し、得意な事や楽しい事が出来るよう支援しております。		

シルバーハウス ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は、散歩等で外出は出来ていたが現在は病院受診のみの外出となっている。	感染症対策の為、今は散歩や遠出のドライブを自粛しているが、以前は雨の日以外は毎日気分転換を兼ねて気軽な外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行により管理が困難になったかたのみ、事務所にて管理を行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙が出せるよう支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節を感じられるような物を飾り、また、一人一人の作品も展示しております。	ロビーの大きな窓から程よく陽が入り、事業所の近くを通る人の姿や四季折々に咲く庭の花までを見ることが出来る。居間兼食堂は天井が高く、採光にも優れ、また、日本海に面した窓からは地平線まで見渡せる、開放感があるゆっくりと落ち着ける造りになっている。室温や湿度は高齢者に合わせて適切に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間でも、それぞれの居場所があり思い思いに過ごされております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人がそれまで暮らし馴染んだ物があり、安心して暮らして頂いております。	テレビやベッド、使い慣れた家具は本人が使いやすい様に、こだわりをもった配置にしている。塗り絵や手作りの作品を飾り、自分の部屋として寛げる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人、出来る事を継続して行って頂いております。		

目標達成計画

事業所名 シルバーハウス ケープ赤石
作成日：令和 3年 11月 24日
市町村受理日：令和 3年 11月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	閉所に伴う職員の労働環境について	現労働環境の見直し	あすなる福祉会関係各所との連携を深める	1週間
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。